○記入用紙

JWUシーズ

※＝入力必須項目

研究者名※	清水　睦美 SHIMIZU　Mutsumi	学位※	博士(教育学)
所属※	人間社会　学部 教育　学科	職名※	教授
連絡先	shimizumu@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0057210		
研究分野※	教育学、教育社会学		
研究キーワード※	学校教育、教育人類学、学校組織・学校文化、多文化教育		
共同研究・競争的資金等の研究課題	●ポスト工業化社会における地方の若者のライフコース形成と東日本大震災のインパクト(科研費・基盤B・研究分担者、2021-2025) ●ニューカマー第二世代のライフコースに関するエスニシティ間比較研究(科研費・基盤B・研究分担者、2018-2020) ●被災した子どものライフコース:東日本大震災発生後10年間の継続的追跡調査研究(科研費・基盤B・研究代表者、2018-2020)		
社会貢献・産学官連携活動等	●日本学術会議第二部臨床医学委員会・脳とこころ分科会シンポジウム「脳とこころから見たWith／Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望」、シンポジウム1:コロナ禍とメンタルヘルス・教育・保健医療、講師(演題　学校教育につきつけられる諸課題、2021年6月20日) ●神奈川県座間市立座間中学校　教員研修講師(2021年8月26日) ●神奈川県綾瀬市教育委員会　国際理解教育研修会講師(2021年8月27日) ●NPO法人教育支援グループ　Ed.ベンチャー　理事(2007年～現在に至る)		
受賞歴	なし		

研究領域	学校臨床学	
研究テーマ※	学校教育とヴァルネラビリティ:移民の子どもと災害の視点から	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 近代以降の日本の学校は、子どもたちに「よき」働きかけをしているとされながらも、結果的に、子どもたちの間に「強い個人」と「弱い個人」という社会関係を作り出している。そこで使われるのが「能力」「資質」「態度」といった言葉で、これにより上記の仕組みが正当化されてきている。この過程において重要なことは、これにより「弱い個人」に位置づけられる子どもたちが様々な場面で排除されてきているということである。本研究は、こうして作り出される社会関係の、特に「弱い個人」に注目し、かれらのヴァルネラビリティが、学校教育においてどのように処遇されているかを明らかにしていくと同時に、別の社会関係を作る可能性を探ることを目的としている。 【応用例、研究の展望】　探求に際し焦点をあてるのが「移民の子ども」と「災害」である。前者は、移民受け入れ制度の不備が多く指摘される日本社会にあって、親の移動に伴う子どもの日本社会への適応は、親の資源の多寡に大きく左右される。特に資源の少ない階層の移民の子どもが経験する排除の多面的な理解は、別の社会関係を探る上で重要である。また後者においては、災害によるヴァルネラビリティを、被災地域はどのような取り扱い、どのように意味づけていくのかを明らかにすることは、「弱い個人」の析出させにくくする社会関係のあり方を模索する上で重要である。 【研究方法の特色】 研究手法はフィールドワークで、研究対象とする場を訪問し、当事者との対話を通して研究を深めている。これらの問題に関心がある現場の方から声がかかれば、まずは現場に出向き、そこで起きていることを一緒に拾い上げながら研究を進めていくスタイルをとっている。	
本研究関連特許・論文等	・2020、『震災と学校のエスノグラフィー－近代教育システムの慣性と摩擦』勁草書房(共著) ・2021、『移民第二世代－エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』明石書店(共著) ・2021、「求められる少人数学級－広がる声・必要性・特別なニーズにある子どもにとっての意義」(単著)、教育科学研究会他編著『もっと！少人数学級－豊かな学びを実現するためのアイデア』旬報社、pp.42-54.	
共同研究・外部機関との連携への期待		